

## 平成 30 年度第 1 回仙台市男女共同参画推進審議会 議事録

日 時 平成 30 年 7 月 30 日 (月) 15:30～17:10  
会 場 仙台市役所本庁舎 2 階 第四委員会室  
出席委員 足立千佳子委員、嘉藤明美委員、加茂光孝委員、佐藤慎也委員、高浦康有委員、  
高橋和之子委員、嵩さやか委員、立岡学委員、田中菜摘委員、星野健一委員、  
村松敦子委員  
欠席委員 大瀧正子委員、加藤和彦委員  
事務局 市民局長、市民局次長、協働まちづくり推進部長、男女共同参画課長、企画推  
進係長、男女共同参画課担当者

### 次 第

(開会前：委嘱状交付)

- 1 開会
- 2 報告
  - (1) 「男女共同参画せんだいプラン 2016」平成 29 年度実施状況について
  - (2) 平成 30 年度の仙台市男女共同参画推進審議会について
- 3 その他
- 4 閉会

(開会前：委嘱状交付)

仙台市市民局長より、宮城労働局 雇用環境・均等室長 星野健一委員に委嘱状を交付した。

(男女共同参画推進審議会)

1 開会

○企画推進係長

- ・委員 13 名中、本日は 11 名が出席。

(1) 仙台市市民局長挨拶

- ・ご多忙のところ、仙台市男女共同参画推進審議会（以下「審議会」という。）にお集まりいただき感謝申し上げます。
- ・また、西日本豪雨災害により、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。災害発生から 3 週間経過した現在も数千人の方が避難所で生活されている。
- ・避難者数は 7 月 23 日の時点で 4,300 人という報道があったが、その中で先日の地元紙に、避難所の中で女性が大変過ごしにくい状況になっているという記事が掲載されていた。災害時に女性が困難を抱えているという状況については、阪神淡路大震災の折に大きく取り上げられ、東日本大震災においても改めて大きな話題となった。そのため、仙台市としても平成 27 年の国連防災世界会議、昨年の防災ダボス仙台会議において、防災分野における女性のリーダーシップをテーマとして取り上げ、積極的に発信してきた。それだけに今回の報道は大変残念な思いがした。東日本大震災で得た被災地の教訓を広めていく必要があると感じた。
- ・本日の審議会では、「男女共同参画せんだいプラン 2016」（以下「プラン」という。）の平成 29 年度の実施状況についてご報告させていただく。目標達成に向けて進めているところではあるが、足元の仙台市役所に関する部分についても一層取り組みを進めていく必要がある。
- ・委員の皆様には活発なご意見を頂戴したい。

[仙台市・出席者紹介]

[配付資料確認]

○企画推進係長

- ・仙台市男女共同参画推進審議会規則第 5 条第 1 項の規定に基づき、会長が議長となる。以降の進行は佐藤会長にお願いしたい。

## (2) 会議の公開等について

### ○佐藤会長

- ・本日の審議会において、非公開とすべき案件はあるか。  
(非公開案件なし・事務局)
- ・それでは本日の審議会は公開ということで良いか。  
(異議なし)

## (3) 議事録署名人の指定について

### ○佐藤会長

- ・議事録署名人については、出席者の中から五十音順で2名を指名したい。今回は、嘉藤委員と加茂委員にお願いしたい。  
(嘉藤委員、加茂委員 了承)

## 2 報告

### (1) 「男女共同参画せんだいプラン 2016」平成 29 年度実施状況について

- ・男女共同参画課長より、資料 1 に基づき報告。また、施策の実施状況については、仙台市男女共同参画推進条例第 9 条において、毎年公表することと定められていることから、今後資料をホームページ、市政情報センターにおいて公開することとしている旨説明。
- ・前回の審議会において、高浦副会長より実施状況報告の際にグラフを活用して資料を見やすくしてはどうかというご意見をいただいていたが、まだ現行プランの 2 年目ということもあり、プランの計画期間終了後の全体報告の際に、改めて見やすい資料となるようにしていきたい旨説明。

### (質疑応答等)

### ○田中委員

- ・女性リーダーを育成するプログラムなど非常に良い取り組みをたくさんしていると思う。また、働き方改革を男女問わず進めていくという視点は大切である。
- ・P5 基本目標 1\_重点課題③の PTA 会長や町内会長に占める女性の割合というモニタリング指標では、意思決定の場やリーダー的立場への女性の参画という視点では、実態を把握できるのかもしれないが、一方で、もともと女性の担い手の方が多い一般会員(平会員)に男性の参画が進んでいるのかという実態の把握も必要だと思う。
- ・女性の方がもともと多い場では、男性の参画を促進していく必要があると思う。
- ・地区の子供会も同様で、会長の多くは女性(母親)である。町内会は男性、子供会は女性という分業体制もある。
- ・実際に地域活動に参加しているのは女性の方が多い。そういった場に男性の担い手を

増やしていくことを推進していく必要があると思う。

- ・リーダー的な立場の女性を増やす一方で、家庭や地域における女性の負荷を一部でも担ってくれる人がいなければ、女性がひとりで全てを担うことはできない。
- ・現状なかなか女性が管理的立場にまでいけない背景には、女性の社会進出が進む一方で、家庭や育児、地域への男性の参画が進まなかったことが関係している部分もある。
- ・何もかも女性の役割のまま、さらに仕事して、管理職になって、リーダーになってというのではなく、一方で男性の家庭や育児、地域への参画を進めていくことが必要だと思う。
- ・一部の才能と運と環境に恵まれた女性だけがリーダーとなっていくことが目標ではない。

○嘉藤委員

- ・仙台女性リーダー・トレーニング・プログラムは非常に良い取り組みだと思う。
- ・事業を開始した平成 27 年度には、ロールモデル的な立場で活動に参加したが、これから企業のリーダーになっていくであろう若い女性たちが積極的に参加しており、とても良い取り組みだと思う。
- ・現在 67 名の修了生がいるとのことだが、修了生のフォローアップ研修やセミナーなどは行っているのか。

○男女共同参画推進課長

- ・今年度初めて、修了生全員を対象としたフォローアップ講座を企画している。また、修了年度ごとに修了生が相互交流のグループを作っている。
- ・引き続き修了年度を超えた交流についても支援していきたい。

○嘉藤委員

- ・仙台女性リーダー・トレーニング・プログラムは、これから社会の中で活躍していく女性のための入門編のようなものだと思う。
- ・一方、実際に管理職の立場になった時や現場に戻った時に感じる課題や問題、悩みの方が大きくなっていくと思う。
- ・折角高い意識をもって参加された女性たちに対して、細やかなフォローを継続していただきたい。

○佐藤会長

- ・P7 基本目標 2\_重点課題②における主な取り組みに関する指標の設定は難しいのか。

○男女共同参画課長

- ・国が実施する調査では、例えば男性が家事や育児等に携わる時間の長さなどを公表し

ている。また、仙台市が実施した「男女共同参画社会に関する市民意識調査」の中でも、「生活の中で各活動に費やしている時間」という項目があり、男女別に、家事や育児・介護、睡眠、自由時間などに費やしている時間について公表している。こうした指標から仙台市の状況を把握することも可能だと考える。

#### ○星野委員

- ・P11 基本目標3\_重点課題③のモニタリング指標「保育施設等入所待機児童数」について。都市部では多くの待機児童を抱えているところが多い中で、計画策定時の平成27年度に比べると、平成30年度当初の実績は、0にはならないまでも待機児童数が大きく減少しており成果がでているものと見受けられるが、保育施設を増やしたなど、何らかの取り組みによるものなのか。

#### ○男女共同参画課長

- ・仙台市では、これまで認可保育所を設置するだけでなく、幼稚園における預かり保育の延長により3歳児以上の受け皿を増やしたり、0～2歳児までを対象とした小規模保育施設を設置することにより待機児童対策に努めてきた。また、保育サービス相談員を各区役所に配置し、日頃より保育サービスの利用に関する相談に対応している。のびすくなどへの出張相談も行っている。

#### ○加茂委員

- ・のびすくも仙台市内5区に設置され、子育てのしやすい環境になってきていると思う。
- ・女性が社会で輝くためにトップになるという視点もあるが、一方で、子どもを保育園に預けざるを得ない母親も増えていると感じる。数字が伸びていない部分についても、女性が何を求めているのか、実は管理職になるというところまでは求めていない方もいると思う。
- ・市民の方がワーク・ライフ・バランスについてどのように考えており、それが仙台市全体の幸福度にどのようにつながっているのか、把握するのは難しいと思うが男性も女性も自分らしく生きるというもっと根本的な視点を取り入れていけると良いと思う。

#### ○男女共同参画課長

- ・女性だけでなく男性にも生き方として多様な選択肢がある。その中で自分の可能性を見つけて、その方向に向かって進みたいと思ったときに、それができるような環境を整えるのが市の役目だと考えている。一方で、中小企業の人材不足や今後人口減少社会に向かっていく中で、女性だけでなく、高齢者や障害者も含め、誰もが活躍していかなければという視点もあるが、市としては前者の視点で取り組んで参りたいと考えている。

#### ○田中委員

- ・ 7月27日に開催された「わたしらしくステップアップー働く女性のビュッフェ交流会」(以下「ビュッフェ交流会」という。)に初めて参加した。
- ・ 参加者の中には、既に共通の知り合いがいる方や間接的に同じプロジェクトに関わっていたという方が何人もいた。
- ・ 仙台市くらいの規模だと、こうした市の主催事業を通して働く女性たちが非常に近いつながりを作ることができ、有効だと感じた。
- ・ 嘉藤委員もおっしゃっていたが、管理職になってからのその後のフォローという意味でも有効であるし、また、そのつながりが10年後の仙台を担うリーダーのつながりになっていることも期待できるので、このような取り組みを続けていただきたい。

#### ○男女共同参画課長

- ・ ビュッフェ交流会には約80名の女性にご参加いただいた。悩みの共有やモチベーションアップにつなげていただければと考えている。
- ・ 女性管理職候補育成プログラムのその後については、内閣府でも、女性役員候補育成プログラムを昨年度から実施しており、仙台市としても、市内の中小企業のニーズを把握した形での役員候補育成プログラムの実施を検討している。ヒアリングの中では、いきなり役員にというのは難しいというご意見もいただいていることから、仙台市としては、管理職のその先、いわゆる上級管理職の育成に向けて、来年度試行実施できるようプログラムの開発に向けて調査をしている。

#### ○立岡委員

- ・ 各施策について着実に進んでいると思う。
- ・ P20基本目標6\_重点課題④のモニタリング指標「仙台市生活自立・仕事相談センターわんすてっぷ」における新規相談件数について補足する。相談件数は、新規相談だけで、3,040件となっており、継続相談を含めるともっと多くなる。新規相談の男女別の内訳としては、男性が1,595件、女性が1,413件、その他が32件となっている。年代別では、40代が669名、50代が514名、65歳以上が382名となっている。相談内容(複数回答)としては、経済的困窮が1,194件、就職活動困難が885件、家族関係・家族の問題が784件、住まいの不安定が606件、就職定着困難が527件。また、DV・虐待に関する相談は76件、子育てに関する相談は85件、ひとり親に関する相談は48件となっている。
- ・ 男女共同参画が進む一方で、社会的情勢をみると格差は広がっているというのが相談件数からも見えている。
- ・ 父子家庭の相談については、民生委員や地区社会福祉協議会等に出向くなどアウトリーチをしながらか、相談窓口の周知に取り組んでいるが、相談件数はなかなか伸びない状況である。

○佐藤会長

- ・計画策定時（平成 26 年度）は 363 件であった相談が、右肩上がりで増加している。

○立岡委員

- ・平成 26 年度については、青葉区のみで試行実施したため件数が少ないというのもある。区ごとの相談件数については、青葉区が 940 件、太白区が 553 件、宮城区、若林区、泉区は 300 件台となっている。また、その他仙台市外からの流入者の相談件数が、495 件と多くなっている。

○村松委員

- ・仙台市外からの流入者も多いとのことだが、相談活動を通して見えてくる仙台市の課題についてももう少し詳しく教えてほしい。

○立岡委員

- ・仙台市には、地域資源も揃っているため、「仙台市に行けば何とかなる」と東北 6 県から人が流入してくるという実態はある。また、宮城県内の他自治体の相談対応の中でも手に負えなければ仙台市を紹介するというケースもある。各自治体においては、住民や現所在地保護した方にはきちんと責任をもって対応してほしい。各自治体や国に対しては、生活困窮者への支援体制について働きかけをおこなっていく必要があると思う。
- ・実際、厚生労働省で定めている相談対応件数の目安値（人口 10 万人に対して新規相談受付件数 26 件/月）に対して、仙台市では 105%ほどの対応実績となっている一方で、宮城県内の他自治体では、この目安値に至っていないところもある。
- ・公的機関では、民間が行っているような同行支援やアウトリーチの実施は難しいため、自治体が直営で対応しているところは、なかなか数字が上がらない傾向がある。
- ・支援のための予算措置についても是非検討いただきたい。

○男女共同参画課長

- ・この分野に関連して、就業に向けて自立が困難な女性の相談は、（公財）せんだい男女共同参画財団（以下「財団」という。）に指定管理業務として委託している女性相談にも寄せられる。
- ・まずは社会との関わりを持つところからフォローアップする事業や、昨年度からは、就業に向けて支援を必要とする女性に対する伴走型の相談事業も始めている。
- ・また、今年度より文部科学省の助成金を財団が受ける予定であり、就業に向けて、学生時代に十分な学力を身に着けることのできなかつた女性に対する伴走型の学習支援事業を実施する予定としている。
- ・こうした事業の中で、女性たちが自分のやりたいことの実現を支援する取り組みを続

けていきたいと思う。

○嵩委員

- ・P9基本目標3\_重点課題②のモニタリング指標「宮城県内における女性活躍推進法に基づく認定（えるぼし）の取得企業数」について。平成28年度から制度が始まり、平成28年度、平成29年度ともに4件という実績となっているが、これはどちらも新規の企業が4件なのか。それとも平成28年度、平成29年度とも同じ企業なのか。「宮城県内における次世代認定マーク（くるみん、プラチナくるみん）取得企業数」に比べると、伸び悩んでいるようにも見える。えるぼし認定の取得の方が厳しいとか、企業の啓発が進んでいないなど、何か伸び悩んでいる事情があれば教えてほしい。

○星野委員

- ・平成28年度と平成29年度の4件は同じ企業である。えるぼしの認定については、管理職の割合、労働時間の規制という面において、くるみんの認定よりハードルが高くなっていることから条件をクリアできる企業が少なく件数が伸び悩んでいる。宮城労働局においても、本省に対して、より取得しやすい制度となるよう意見を提出しているところではある。

○嵩委員

- ・では、特に宮城県や仙台市だけの問題ではなく、制度的にハードルが高く取得が難しいということなのか。

○星野委員

- ・そのような状況である。

○村松委員

- ・西日本豪雨災害に関連して。東日本大震災の際には避難所で大変な思いをした経験があるわけだが、西日本豪雨災害において、仙台市では被災地にどれくらい職員を派遣しているのか。
- ・仕事を通しての感想だが、仙台市の女性はあまり元気がないように感じた。自分たちが体験したことを色々な自治体に共有するきっかけに、今回の災害はなると思う。
- ・仙台市全体の底上げが必要だと思うが、まずは仙台市の職員が、自身のキャリアや停滞している状況について分析し、いきいきしてほしいと思っている。

○男女共同参画課長

- ・1点目、西日本豪雨災害に対する仙台市職員の派遣状況については、全国的に大規模な災害が起きた場合に、都市と都市が1対1のような形で支援するカウンターパート



方式という体制をとっている。今回の豪雨災害においては、特に東日本大震災の際に支援いただいたつながりもあり岡山県総社市からの支援要請を受けて、全体的な災害対応の調整役として職員を派遣したほか、罹災証明書の交付に対して多くの人員を派遣している。避難所運営に関しては他自治体が担当しており、役割分担しながら支援に取り組んでいる。派遣職員については男女問わず、保健師なども派遣しているところである。

- ・今回の災害では避難所運営の支援に入っているわけではないため、東日本大震災における男女共同参画の視点での知見をお伝えする機会がなかったというのが実情だが、熊本地震の際には、避難所運営の支援に入っていた中で、避難所の運営委員会に女性を入れていただくよう働きかけなど行わせていただいた経緯はある。
- ・2点目、仙台市職員の活躍については、市役所内部でもこれまでロールモデルとして管理職の女性を見てこなかった職員にとっては、一方で、退職まで主任級で働き続けるというロールモデルがあった。現状、20代30代の職員については、女性の割合も非常に増えているが、40代50代の管理職に占める男性の割合は突出して高くなっている状況で、30代40代の女性が係長職以上になっていかないと、職員構成としていびつな形になっていくということを職員全体に啓発している。また、女性職員に対しても職場環境に対して良い影響を与えてほしいという働きかけを行っているところである。

## (2) 平成30年度の男女共同参画推進審議会について

- ・男女共同参画課長より、資料2に基づき報告。

## 3 その他

- ・男女共同参画課長より、参考資料1～3について紹介。

(質疑応答等)

### ○高浦委員

- ・参考資料1「2018年ジェンダー論公開講座 ルポ貧困女子」に関連して。チラシの中にSDGs(エスディーゼーズ:Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)について記載しているが、テーマの中にジェンダー平等というがあるので、大いに関連してくると思う。
- ・仙台市としてSDGsの実現推進に関する全般的なところで進めていることがあれば教えてほしい。特に男女共同参画の視点から本審議会としても、どのようにSDGsについて考えていったら良いかお聞かせいただきたい。

○男女共同参画課長

- ・仙台市では、現在次期仙台市総合計画策定の準備に入っており、その中でSDGsとの関係は切り離せないものと考えている。
- ・男女共同参画の分野に関しても、取り組みの中で関連のあるものについては、今回の女性と貧困のテーマのような形でSDGsとして発信し続けながら、次期プランの中でどのように関連づけていくかという点について委員のみなさまにも、ご意見をいただきたい。

○高浦副会長

- ・11月の審議会のテーマが次期プランの策定ということなので、このテーマについて議論しても良いと思う。
- ・他の自治体でもSDGsの推進をテーマに掲げているところも出てきているので、他自治体の動きもにらみつつ仙台市としての目標を見つけていければ良いと思う。

○佐藤会長

- ・これ以上意見はないようなので、議事については以上としたい。進行を事務局にお返しする。

#### 4 閉会

○男女共同参画課企画推進係長

- ・閉会にあたり、以下の2点をご案内申し上げます。
  - ①議事録の署名について。本日の議事録原案を事務局で作成し、議事録署名人に指名された嘉藤委員、加茂委員に後日お送りする。内容をご確認の上、ご署名いただきたい。署名をいただいた後、市政情報センター及び仙台市ホームページで公開する。
  - ②次回の審議会開催について。今回は、11月ごろの開催を予定している。日程調整については、改めてご連絡差し上げる。
- ・本日の審議会はこれにて終了とさせていただきます。

議事録署名委員の署名

仙台市男女共同参画推進審議会委員

嘉藤 明美

仙台市男女共同参画推進審議会委員

加茂 光孝